

事業企画戦略室会議 (平成26年度第3回)

議事録

2014年9月16日(火)開催

時間	14:00～17:30		場所	地盤工学会地下中会議室	
大林 淳 室長	○	高梨 俊行 室員	×	高橋 英紀 室員	×
並河 努 室員	○	南部 いづみ 室員	○	堀 雅明 室員	○
保高 徹生 室員	○	山田 岳峰 室員	○	渡邊 康司 室員	○
事務局：松本雅樹	×	事務局：伊佐治敬	○	オブザーバ渡邊保貴	○

○：出席 ×：欠席

【議題】

議事録担当者の選出 → 堀室員

1. 前回議事録の確認【別紙-1】

- ・前回議事録を確認し、承認された。

2. 和田理事との情報交換【別紙-2】及び【和田理事作成資料】

- ・事前送付の質問事項をベースにダイバーシティに関して情報交換。

質問事項に関する回答

- ・地盤工学会は土木学会より10年進んだ取り組みをしている。一般会員に占める女性の割合は低いものの、女性会員は増えており、学会の意思決定に関わる理事もいる。事業企画戦略室には、女性登用に關し継続的な委員会の評価の実施をお願いしたい。また、研究委員会への女性登用をプッシュしていただきたい。若手に関しては、学会の仕事の負担が大きく疲弊が感じられる。シニアに関しては、講師・話題提供・運営のボランティアへの協力を得られそうな空気がある。若手とのバランスをどのようにとるかが課題ではある。
- ・支部独自でダイバーシティ推進に取り組んでいるところもあり、情報の収集とベストプラクティスの水平展開が必要な状況。
- ・ダイバーシティの学会内外への情報発信は重要であると考えており、広報委員会との連携を進めている。九州の研究会では、広報委員会を通してマスコミに投げ込みを行った結果、特別セッションの様子が地元のケーブルTVにて放映された。
- ・女性委員の登用要請に関する文書(本部に対する再度のお願い、支部への登用依頼)を事業企画戦略室とともに検討するようなこともあっていいのではないかと考えている。この一方で、ダイバーシティ委員会には各支部代表の委員を増やしたいが予算がないという現状もある。
- ・学会の中に、会員減少は致し方ないという空気があるようにも感じる。ダイバーシティでは魅力ある学会作りをすすめ、会員を増やす方向を模索している。

情報交換

- ・会員減少に歯止めをかける必要があるとの認識はある。(大林室長、山田室員ほか)
- ・情報処理学会は、若手理事の登用などで会員増になった。その理由、ノウハウを集めたいと考えている。(和田理事)
- ・研究委員会に女性を登用しようとした場合、該当者がいても既にいくつかを掛け持ちしていたりする現状がある。是非この方にといった推薦をもらうことも場合によっては必要に感じる。(事務局伊佐治)
- ・ダイバーシティでは、技術者紹介ということで、10名程度の女性をまず対象にすることを考えている。その後、若手、シニア、海外に広げていきたいと考えている。(和田理事)
- ・女性の登用という観点では、280名の女性会員がいるが、どの支部で、委員会活動に参加可能なのかといった分析の実施が必要なようにも思われる。(山田室員)
- ・事務局に会員情報の提供をお願いしてみたい。(和田理事)
- ・女性JGSの会のようなものが、数値目標設定の前段階としてあるのがいいかもしれない。事業企画戦略室の協力方法を含め検討していくのが良いのではないか。(山田委員)
- ・会員減少対策はどの委員会が担当するのか、情報処理学会へのアプローチを事業企画戦略室で

すべきか。(保高室員)

- ・ 情報処理学会の関連メールを大林室長に送る。今回は、情報共有含め有意義であった。(和田理事)
- ・ 情報処理学会が採用している、「若手やんちゃ枠」や実質4年間の「長期戦略枠」等も是非、地盤工学会でも検討をするよう働きかけてはどうか、との意見が出された。

- ・ ダイバーシティ委員会と事業企画戦略室との情報交換を何らかの形で続けていく。

その他

- ・ 魅力的な学会作りという観点で、委員会の効率化、委員会活動に貢献している会員への表彰(功労賞)を設けてはといった意見がだされた。

3. 事業企画戦略室規程案【別紙-3】

- ・ 事務局より、改訂規程について説明。
- ・ 一部の誤字を修正し、9月26日の理事会で審議いただく。

4. 中長期財政検討委員会および指示事項について【別紙-4】

- ・ 大林室長より内容説明。
- ・ 検討委員会は、一年延長となりその後も総務部、事業企画戦略室がかかわっていくこととなった。
- ・ 財政健全化のための方策の実施状況として、57の項目についてチェックがなされている。
- ・ トピックとしては2点あり、①研究会の講演集をダウンロード方式への変更の検討。②公益出版部の販売管理システムに関する検討。②については、事業企画戦略室で具体的な枠組みの議論を求められている。
- ・ 出版企画でも検討を行っている。(渡邊室員)
- ・ 11月の会議において、出版企画から説明をいただくこととしたい。(大林室長)

【保高から大林室長への確認事項】財政健全化に関しては、事業企画戦略室としての関わりは、まずは②公益出版部の販売管理システムに関する検討のみでよい、という理解で良いでしょうか？

5. 若手の国際活動活発化に関して【別紙-5】

- ・ 11月の理事会で勝見部長にご相談することとなっている。(大林室長)

6. 学会事業の重点化アクションプランへの取り組み【別紙-6】

- ・ ①地盤品質判定士：講習会に73名の参加があった。地盤工学会会員以外の方も多く参加されている雰囲気もある。本部、支部の講習会で利用できるテキストの作成が検討されている。検討の推移を見守ることとする。
- ・ ②電子図書館：さらなる利活用方法を立案し、理事会に具申していく。現状のシステムを前提に提供できるものとし、大きな枠組みで考えて、各部に検討を打診する方向で考えていく。WG(並河先生へ大林室長よりリーダーを依頼予定)を立ち上げる。
- ・ ③地盤情報データベース：利活用状況、実務的利用価値も含めて検討が必要ではないか？電子図書館の利活用検討の中に組み込むこともあり得る。地盤品質判定士が利用するといった観点があってもよいのかもしれない。JGSの貴重な財産として、維持管理していくということも必要かもしれない。
- ・ ④会員データベース：委員会等の活動経歴の枠はあるものの、反映されているとは言い難い状況である。
- ・ これら内容について、並河先生と相談しながら進める。

7. 新たな取り組みの企画(案)について

- ・ 情報発信・広報の強化について、横尾理事とのやりとり内容を次回報告する。(大林室長)

8. その他

- 1) 室員の増員

・オブザーバ参加いただいた、渡邊保貴氏が、次回から室員として加わる。

2) 第4回事業企画戦略室会議の開催日確認：平成26年11月11or12or17or18日() 14:00～17:00

3) 次回理事会への提案事項

- ・審議事項：事業企画戦略室規程案
- ・報告事項：特になし